

第2回 尼崎市総合計画審議会 第3分科会

【議事要旨】

日時	令和3年8月30日(月) 18:00~
開催場所	ZOOMによるWEB会議
出席委員	青田分科会長、加藤委員、花田委員、室崎委員、小坂委員、仁保委員、村田委員
欠席委員	堂園委員、畠中委員
事務局	中川政策部長、田中総合計画担当課長、総合計画担当職員、関係局職員

1. 開会

- 資料の確認
- 議事要旨署名委員の指名
室崎委員、小坂委員

2. 第6次尼崎市総合計画 施策別の取組(各論)について

【施策10 消防・防災】

(委員)

代表指標について、展開方向の大項目として「公助及び自助・共助力の向上」がある中で、2つの指標とも受け身の指標だと感じる。行政に対して、安心を持ってくれる人が増えたとしても、公助だけではすべてをフォローできないので、いざというときにどう行動すべきかを意識をしている市民の割合を増やしていくことがよいと思う。また、「市民の自助・共助の意識の向上が測れる指標」があった方が、展開方向の効果がわかりやすく、「ひと咲きまち咲きあまがさき」でいう、人の力を育てていくことにもつながると思うがどうか。

(分科会長)

委員と同じく、この代表指標については受け身の指標という感じがする。例えば、「公助・自助・共助」という考えであれば、指標についてもそれぞれで指標を設定するやり方もあるかと思う。1つの例で言えば、展開方向の上から4つ目の●の「マイタイムラインの作成」は自助になり、「作成率が何%」とすると非常にわかりやすいと思う。また、共助で言えば、「コミュニティの中での支え合いが何%」とすると、少しは主体的になると思うがどうか。

(災害対策課)

まず、こちらの指標を設定する際、ご指摘いただいた通り「公助、自助、共助」の指標の設定を考え、どのような項目がよいか議論してきたところではあるが、スタートするにあたり、公助の取組として、災害対策で非常に重要である「情報伝達」の取組を選んだところである。ただし、ご指摘の通り、「自助・共助」の指標についても、今後、事

業展開していく中で非常に重要になってくるので、いただいたご意見を踏まえて検討していきたい。

(分科会長)

展開方向の「①消防」と「②公助力及び自助・共助力の向上」で、書き方が異なっており、②の方がより具体的でわかりやすいと思うが、①の書き方をもう少しわかりやすくすることはできるか。

(消防局企画管理課)

ご指摘の通り、展開方向①と②で記載方法が異なっているので、基本的には②に合わせる形で、具体的に記載させていただく。

(委員)

「3 現状」の1つ目のポツで、「生活様式等の変化に伴い、災害件数（火災、救助、救急）に変化がみられる」とあるが、どんな変化があったかのポイントを記載してもらえればわかりやすくなると思うがどうか。

「6 主な関連計画」の右側に「他施策で関連する分野別計画」があるが、「福祉」とか「住環境」など、大きな分野で括って記載する方が、一目でどのような分野と連携しているのかわかると思うがどうか。

(消防局企画管理課)

当初は、文字数の制限の関係でこのような表現となり、下の方に【災害件数の推移】という形で、平成25年度～令和2年度までの件数の推移を記載しているところである。ただし、件数の増減だけではわかりにくい部分もあるので、事務局と調整する中で、少しでもわかりやすい表現にさせていただく。

(事務局)

分野別計画の書き方については、ご指摘いただいた通り、より見やすく、わかりやすい記載を検討させていただく。

(分科会長)

「5 施策の展開方向」の「②公助力及び自助・共助力の向上」の一番下に「災害時要援護者の支援の取組」とあり、指標としてはわかりやすいと思うが、これを指標に持ってくるとなるとどのようなものが想定されるのか。

(福祉課)

個別避難計画の作成について、自主防災会組織を中心に連携した取組を試行的に進めており、今後は、災害リスクの高い要支援者を把握する中で、優先順位をつけて計画の作成を検討していきたいと考えている。また、福祉避難所だけでなく、要援護者の方の体の状態や障がいの度合いなど、様々な状況に応じて施設への緊急輸送などを勘案した上で、避難所の確保に努めていく必要があり、今後は、様々な関係機関と協議していきたいと考えている。

(分科会長)

都市部は厳しいと思うが、個別避難計画の策定率は何%か。

(福祉課)

まだ作成できていなが、今年、5地区で試行的な作成に向けた取組を進めているところである。

【施策9 生活安全】

(委員)

自転車政策について課題から魅力へということだが、生活安全という施策名に対し、自転車のまちづくりが入っていることに違和感がある。プラスに転換する内容である展開方向③の上から2つは、施策12の環境の脱炭素社会に置く方がよいのではないか。

(分科会長)

「4 主な課題」の一番下の内容は、課題というよりは施策の展開方向のような書きぶりになっている。

(生活安全課)

ご指摘については、第1回分科会でも話があったが、総合計画担当と調整する中で、自転車のまちづくりの事務局機能がある施策で集約する形で記載している。変更できるかわからないが庁内でも再検討したい。

(経済環境局企画管理課)

施策12の環境ではより大きな視点で書いており、どこまで書けるかわからないが検討する。

(事務局)

総合計画の各論作成のルールとして、ひとつの施策にいろいろな視点がある中、本籍地を決めてそこで記載することとしている。それぞれの施策で記載することで、漏れが生じるなど收拾がつかないことも想定される。自転車政策は、従来は盗難や路上への放置が課題となっており、生活安全に位置づけられている経緯がある。この施策が健康、環境の面にもつながるというところは把握しているが、現在は生活安全の位置づけで設定している。改めて検討はしていくが、施策を割って記載することは考えていない。

(委員)

防犯の施策において、街灯など都市環境整備の視点はどの施策に入るのか。

(生活安全課)

大きな意味では生活安全に含まれている。

(道路維持担当)

防犯灯という形ではなく街路灯を道路維持担当が設置し維持管理している。これは施策13の「4 主な課題」の2つめに含まれており、街路灯を新たに付ける際はLED化するなど環境負荷の低減を図るなど行っている。

(委員)

比較的暗い所で犯罪が起きると思うので、そういったところを減らしているという部分を施策13の中で表現していただきたい。

(分科会長)

主な課題の3つ目で「関連部署と連携した」とあるが、スタンスが供給者側と読み手側に分かれ、読み手側とすれば、連携するのは当然と思われる。地域福祉との連携という意味では、関係機関との連携といった、より具体的な記載をするほうが良いのではないかな。

(生活安全課)

他の施策との関連もあるが、表現については調整を行いたい。

(事務局)

ご指摘のとおり庁外の連携で改めて書く必要のあるものは記載して、庁内の連携というのは当然しているということで記載の統一を図っていきたい。

(委員)

「6 主な関連計画」にマスタープランが無く、交通以外の具体的な計画がない。今後計画を作成するような予定はないのか。

(事務局)

計画については、一定のレベル以上の計画をピックアップしている。全ての分野で計画があるわけではない。しかし本当に計画が必要なかどうか、検討のきっかけにしていきたい。計画がどういう区分なのかというのは、記載例のところに追加する等、計画の掲載ルールなど明確にしていきたい。また先ほどご指摘頂いた他施策で関係する分野別計画については、分野を区切る等工夫をしていきたい。

(委員)

生活の安全を考える時に、人と人とのつながりが大切かと思う。例えば特殊詐欺を防ぐとか、見守りもそうだと思うが、日常生活において、つながりが生活の安全に結びつく面があると思うがそういうところは展開方向に盛り込んでいくのは難しいのか。

(生活安全課)

地域を巻き込んだ取組は重要だと考えている。例えば交通安全の関係でいうと事故の多い交差点で職員が指導をしているが、当然この取組については行政だけではできないので、今地域の見守りをしている方が多数いる。その状況を見る中で声掛けする等、取

組を進めている。展開方向には記載しておらず、どこまで記載できるかはわからないが検討させて頂きたい。

【施策13 都市機能・住環境】

(委員)

展開方向のキーワードのところにバリアフリーかユニバーサルデザインをいれていただけませんか。バリアを作らないまちをつくっていくことがユニバーサルデザインである。ユニバーサルデザインの概念が全体にかかってくるものとはいえ、SDGsで謳っている誰も取り残さないという意味において、環境面で取り残してしまうことは致命的なので、ハード面で取り組んでいる姿勢を見せることは非常に大きな意味を持つと思う。可能であれば記載を検討していただきたい。

(分科会長)

「4 主な課題」の記載方法が施策の展開方向になっているため改善をお願いしたい。

(都市戦略推進担当)

課題に今できていない部分がかかれていてというよりはやりたいことを書いている。表現の仕方については工夫が必要であり、全体の調整の中で整理する必要があると感じていると考えている。後ろ向きにできていないと書くよりは、前向きに取り組んでいくという姿勢で書いている。バリアフリーなどをキーワードにということは、引き続き検討する。

(事務局)

事務局の方で、語尾を調整した関係もあり、課題と展開方向がより似た表現になってしまっている。この内容は他の分科会でもご意見をいただいているので、全体調整を図っていきたい。

(委員)

施策13で使われている「まちのブランディング」は基本的に尼崎における個別の地域のブランディングなのか、市全体のブランディングなのかどちらか。

(都市戦略推進担当)

ここでいうブランディングは、地域ごとの特徴を活かしてという意味である。また個別のエリアの中で特徴を見ながら何が効果的か図りながら施策を展開していくことをまずは目指したい。その取組の集合体が尼崎の良さというところを将来的に見せられたらと考えている。

(委員)

「まちのブランディング」という表現を見た時に、尼崎市全体ととらえられかねない。ひとつひとつをブランド化していくということは大変だと思うが、これまで他市などで個別の地域をブランディングしている事例はあるのか。

(都市戦略推進担当)

他市の事例はわからないが、尼崎市はいろんな特徴をもった地域が集まっていることが魅力の一つであると考えており、市全体を魅力づけるというところが大きな意味でのまちのブランディングという考え方である。エリアマネジメントに取り組みながら、全体を構築するというねらいを持っている。

(委員)

ブランディングという表現が気軽に使われているような印象を受け、一般的に受け入れられるものかという意図で質問したが、考えは理解できた。

(分科会長)

代表指標でもブランディングが進んでいると感じられる市民の割合、と記載があるが、市全体のブランディングととらえられる可能性がある。地区を示すという事であれば、そのあたりの表記も必要でないか。

指標が少し受け身になっている。第1分科会でも議論になったが、意識を問うものと客観的事実を問う指標もあるので、そのあたりはまた検討していただければと思う。

(委員)

方向性が都市機能・住環境ということで、一般の市民の住みやすさに偏りがちと見受けられる。産業者や工業者にとっての住環境の視点もある。産業者、工業者に対する共存の配慮が足りていないように感じる。産業は尼崎市としてのいい意味での特色だと思っているので、そのあたりの表現を検討していただきたい。

(都市戦略推進担当)

指標は体感指標だけでよいと考えておらず、別途指数を検討しているので、後に確認させていただきたい。

産業者や工業者も含めた住環境というご指摘に対しては、土地利用誘導のなかで、地域の特性に応じてという内容などに含めているが、表現方法については検討したい。

(委員)

「3 現状」の部分の表現は、見方によっては、否定されているように感じるなのでそのあたりは配慮していただきたい。

(住宅政策課)

総合計画において記載はないが、個別計画である住まいと暮らしのための計画の中では、住工混在地、住商混在地それぞれでどのように魅力をつけていくかという記載があり、地域の特徴を活かした魅力を出していこうという内容となっている。

(委員)

前回分科会意見の脱炭素に関し、課題の部分に記載し対応とあるが、キーワードで脱炭素を入れるべきではないか。社会インフラよりは、グリーンインフラといった、こちらの方向へ行くんだということをはっきり書いた方がよいのではないか。

都市機能は、工業商業農業のビジネスの基盤となると思う。そういう意味で土地利用が直接結びつくため、経済界をみんなで盛り上げていくようなことを書いた方が良いのではないか。

これから船の動力が変わってくると言われている。臨海部の例えば港での充電設備の整備などを含めて、世界に先駆けるような取組をすすめてはどうか。

(事務局)

次の5年で重点的に取り組む「主要取組項目」を庁内で並行して検討しており、その中に、脱炭素の分野を入れる方向で検討を進めている。次の専門部会で項目出しをし、議論していきたい。

【施策12 環境保全・創造】

(委員)

サーキュラーエコノミーは主な課題に記載されている概念と少し違うと思う。廃棄物を資源として考えることや、アップサイクルの考え方が必要といったところから、新しい産業へつながっていくことをもう少しはっきり書いていく方が良いのではないか。

プラスチックごみゼロ宣言を尼崎市ではしていたか。

(資源循環課)

プラスチックごみゼロ宣言は尼崎市ではしていない。

サーキュラーエコノミーについては文字数に制限があり、このような表現になっている。展開方向への位置付けについては、先般策定したところである一般廃棄物処理基本計画（～R12）との整合の関係があるので難しい。

(委員)

サーキュラーエコノミーは抽象度が高い概念で、現実に尼崎市での実現は非常に厳しいことは事実である。例えばサーキュラーエコノミーを目指してという表現など、もう少し見直した方が良いのではないか。

(委員)

現状で環境オープンカレッジなどの環境教育に取り組んでいるとあるが、課題にはその点の記載がない。実際どの程度進んでいるのかが気になる。脱炭素社会やSDGsについての知識はあるが、市民が日常生活で実際のできることをの提案など、行動につながる働きかけを意識した表現にならないか。課題に記載がないということはあまり問題意識を持っていないのか、考えをお聞きしたい。

(環境創造課)

環境学習は全ての根幹だと考えている。キーワードに環境学習・啓発と記載しているが、最終目的は市民・事業者の方の行動変容である。①の脱炭素社会の2つめ環境に配慮したライフスタイルの実践という最終目標に向けて学習や啓発の取組を進めていくという主旨である。決して課題認識がないわけではなく、一番重要な点と考えている。文字数の制限がある中で、環境という広い概念の施策を記載する必要があり、具体的に

表現できていなかった。表現方法は事務局と検討していきたい。

(委員)

具体化されないと伝わらない部分がある。市民がもっと主体的にかかわることを全面に出せるよう、気持ち伝わるような表現方法を検討いただきたい。

(分科会長)

展開方向の記載内容自体は理解できるが、では具体的にどうするのが理解しにくい。事務局と相談し、市民のわかりやすさにも配慮していただきたい。

【施策 11 地域経済・雇用就労】

(分科会長)

取組内容をもう少し具体化していただきたい。

(委員)

総合計画の代表指標としてはふさわしくなく、典型的なアウトプット指標となっている。尼崎経済のアウトカムを展望できるものとして、経済のダイナミズムが感じられる視点の指標となるべきだと思う。例えば一般的には新規開業数や、イノベーションの面では、特許数の推移。労働市場においては、完全失業率・有効求人倍率といった指標について検討してもよいのではないかと。実際のところ地域経済のアウトカムを見るのは相当難しいが、現在の指標では違和感はない。

(地域産業課)

検討を重ねた結果であるが、改めて検討したい。業種も幅広く、労働市場も含まれており難しいところが、検討していきたい。

(委員)

あま咲きコインにこだわりすぎているように感じる。もう少し大きく経済について、課題や現状を踏まえ再検討していくべきではないか。SDGs の関連でも様々な分野で関係してくると思うので、もう少し地域経済全体を踏まえて代表指標の設定などをすべきではないか。

(委員)

あま咲きコインに関しては、市として一生懸命取り組んでいるのは理解しているが、商業活性の面でうまく使えればよいのではと思っている。市内事業所への就労者数も労働市場には影響しない。また中小企業が尼崎から出ていっている傾向もある中、市内の産業の活性化として、第二創業の支援、新規事業者の支援をもう少し具体的に表現できればよいと思う。尼崎で第二創業ができる、起業ができると、応援しているまちを打ち出すと尼崎らしさがでるのではないかと。

(地域産業課)

あま咲きコインの内容に偏りがあるという意見についてはそのとおりだが、そもそも

は、SDGs の目標達成に向けた取組として行動変容を促していこうとするものである。
代表指標についても改めて検討を進めたい。

(分科会長)

主な課題の4つ目の内容を展開方向にもっていくことはどうか。

(経済部)

市として創業、第二創業とも力を入れている。尼崎は経済部門において行政だけでなく、産業団体、金融機関と連携しながらオールあまがさきで取り組んでいることが特長的と考えており、そのあたりも指標になりうると思うので検討していく。

(分科会長)

全体における提案だが、現状と課題の部分を合体し、展開方向の欄を広げることにはできないか。

以 上